



福島県立梁川高等学校
令和元年5月15日
校長だより
知性 誠実 責任
第7号

■ 第65回福島県高等学校総合体育大会県北地区大会観戦記その2

今回の県北地区大会には、梁川高校から陸上競技部、弓道部、バスケットボール部、ソフトテニス部の4つの部が参加しました。

【個人競技】

陸上競技部は、3名の部員がそれぞれ自分が出場する種目で、県大会や自己ベストを目指し、精一杯がんばりました。3名ともまだ2年生です。秋の新人大会が楽しみです。

弓道部は、多くの1年生が入部し、活動が活発化してきました。今回の大会には、2名の男子が出場しました。大会では、他の競技とはまた違った緊張感の中、集中力を高め、1本1本の矢に思いを込め、的をめがけて矢を放っていました。1年生は、先輩2人の姿や他校の選手たちの様子を見て刺激を受け、大変勉強になったことと思います。

陸上競技も弓道も個人で行う競技です。信夫ヶ丘競技場のような大きな会場で競技したり、一矢一矢に多くの人たちの目が集まる福島明成高校弓道場のようなりっぱな会場で矢を射たりする経験は、貴重なものであり、高校生活の、そして人生の財産となるものです。梁川高校の部活動は人数が少ない部が多いわけですが、裏を返せば、大会に出るチャンスが増えるとも言えます。まずは、大会に出ることが重要です。出場すれば、高校生は多くのものを吸収し、多くのことを感じるすることができます。それがまたこれからのエネルギーとなります。

大会が終わった翌日の5月13日（月）、いつものように昇降口前に立ち、登校してくる生徒たちに挨拶をしていると、晴れやかな表情の生徒が何人も通っていきました。みんな大会に出場した生徒たちです。結果だけ見れば勝っているわけではありませんが、何かやり遂げたような充実感、満足感が感じられる表情でした。

【団体競技】

部員数が少なく単独チームでは出場できないことも考えられたバスケットボール部でしたが多くの1年生の入部があり、めでたく梁川高校として大会に出場することができました。今回の大会での対戦相手は県内屈指の強豪校でした。相手校のベンチに目をやると、昔からの知り合いである方が監督でした。「お手柔らかに」と挨拶をし、試合が始まりました。

次から次へと相手のボールがゴールに吸い込まれていきましたが、こちらも4番、大槻裕章君のドリブルを中心として、相手陣内へと攻め込んでいきます。惜しいシュートも何本かありました。フリースローによる得点、遠くからの3点シュート、パスをつないでの見事なシュートなどがあり、相手から得点を奪うことができました。

試合中は、監督である野地先生の大きな声がずっと会場中に響いていました。具体的なアドバイスもありましたが、最も多かったのは「下を見るな」と選手たちを励ます声でした。野地監督の期待に応えるように、選手たちは最後まで走り抜き、少しでも得点を重ねようとがんばりました。その姿は賞賛に値するものでした。また、大きく点差がついても一切手を抜くことなく、こちらを馬鹿にするようなそぶりもなく、最後まで全力で戦ってくれた相手校の姿は、さすがは県を代表する強豪校だと思わせるものでした。試合後には、知り合いである相手校の監督さんに心から「ありがとうございました」と言うことができました。

あづま総合運動公園では、ソフトテニス部が大会に出場しました。ソフトテニスの学校対抗戦（団体戦）は3ペアがダブルスの試合を行い勝敗を決めます。試合前の様子から選手たちを見ていましたが、チームとしてのまとまりがあり、お互いに声をかけ合い、励まし合い、試合に臨もうとしていました。試合前の整列の後には、みんなで円陣を組み、士気を高めていました。

試合は、緊張をしながらも「勝とう」「勝ちたい」という気持ちが表れたものでした。試合中も監督である加藤先生のアドバイスに加えて、お互いに声をかけ合い、何とか勝ちにもっていかうとする姿が見られました。結果は思うようなものではありませんでしたが、みんなでまとまって大会に臨む姿には清々しさが感じられました。大会翌日の朝には、部員の一人が「校長先生、応援ありがとうございました」と声をかけてくれました。このような梁高生を増やしていきたいと思えます。

今回、様々な競技を見て感じたことは、大会に出ることがどれほど重要なことかということです。高校生は大会に出れば、大人が思う以上に多くのことを考え吸収します。そして、一回りも二回りも成長します。長い人生の中で、高校生でなければ経験できないことがあります。高体連や高野連の大会もその一つです。インターハイや甲子園を目指して日々努力することは、高校生でなければできないことです。全国大会まで勝ち進めるのは一握りのチーム、選手かもしれません。しかし、県北大会に出場すること、勝ち進み県大会に出場することにも大きな意義があります。目標とする大会に向けて日々練習し、大会で力を発揮しようとがんばることは、やはりかけがえのないことです。

これからさらに梁川高校の各部の活動が充実し、大会でどんどん活躍してくれるよう期待しています。今回、応援や見学により大会の様子から多くのことを学んだ1年生が、秋の新人大会では各部の主力となってくれることを望んでいます。会場まで足を運んでくださり、声援を送ってくださった保護者の皆様、学校関係者の皆様、ありがとうございました。そして、これからもよろしく願いいたします。